



各地区でどのようなやりとりが行われたのか、主な内容をご紹介します！

平成27年度 村政懇談会



8月24日から30日にかけて、東海村自治会連合会と村との共催による村政懇談会が、各コミュニティセンターで開催されました。懇談会では、村長から、今年度の村政運営の基本方針や予算について説明がされた後、各地区から事前に提出された質問や要望に対する回答の報告や、参加者による自由質問が行われました。

今回は、各地区で行われた懇談の内容（一部抜粋）についてご紹介します。なお、詳細は村公式ホームページに掲載の議事録をご覧ください。

■問い合わせ 自治推進課 自治推進担当（☎282局1711 内線146151463）



村長による

村政についての報告

【村政運営の4つの基本方針】

- ①「東海村第5次総合計画」の推進
- ②「持続可能なまちづくり」のための6つの重点施策
- ③「まち・ひと・しごと創生」に向けた対応
- ④原子力政策について

【②「持続可能なまちづくり」の重点施策（内容 一部抜粋）】

●子育てしやすいまちを目指した新たな子育て施策の推進

パソコンやスマートフォンで、子育てに役立つ情報を入手できる子育て応援ポータルサイトを開設します。

●健康寿命を延ばすための新たな健康づくりの推進

ヘルスロードの整備等、運動の習慣化を目指し、これまで以上に村民の健康づくりを推進してい

きます。

●給付型から支援型へのサービス転換を目指す

●新たな介護予防の推進

介護用品購入費の助成対象を拡大するとともに、介護予防施策の一層の推進を図ります。

●地域自治活動の活性化に向けた新たな支援方策の検討

「まちづくり協議会」の創設や補助金の一括交付金化など、新たな支援方策のあり方について検討していきます。

●地域公共交通の確保と地域経済活性化の促進

●環境モデル都市を目指した環境政策の推進

村を環境先進地としてアピールできるよう「環境モデル都市」の認定を目指し、構想の策定等に取り組んでいきます。



【村松地区】

期日▼8月24日
場所▼村松コミュニティセンター
参加者▼85人

事前質問▼駆上り動燃線の渋滞を解消するため、国道245号の4車線化工事の際に、(日本原子力研究開発機構サイクル工学研究所前)の交差点の右折ラインの2車線化を検討してほしい。

建設農政部長▼県に確認したところ、現在、国道245号の拡幅改良工事に伴う交差点の改良予定はないとのことだった。右折ラインの工事については、皆さんや関係者からの意見を調整しながら、国道245号の拡幅改良工事とは別に考えていく必要がある。朝夕の混雑時の渋滞解消を図るためには、右折レーンの滞留スペースを長くすることも方法の一つ。皆さんが、より安全な通行ができるよう、まずは警察と、交差点に関する協議を進めていきたい。

川根区住民▼今後の村の人口を増やしていくために、村としてどのようなことに取り組んでいくのか？

村長公室長▼現在、地方の人口を増やしていくと、国を挙げて

地方創生という事業に取り組んでいる。その中で総合戦略をつくっているが、併せて、村全体の人口をどのように増やしていくのかを示す将来ビジョンをつくっている。東海村は地域別で見るとかなり人口に差があり、照沼小学校区は人口減少が著しい地域である。村としても今後このような地区をどのように活性化させていくのかは非常に重要な課題である。照沼小学校区は、ひたひたなか地区の後背地という位置づけで計画を立てるよりも、人口減少対策として、この地域をどのように活性化していくのかに焦点を当てて計画を立てていく必要がある。その計画策定に当たっては、地域の皆さんの知恵を借りながら、一緒に考えて対策等を考えていきたい。



第1回「東海村まち・ひと・しごと創生推進会議」の様子

【石神地区】

期日▼8月25日
場所▼石神コミュニティセンター
参加者▼108人

事前質問▼昨年度要望した事案(前谷水田道路沈下による雨天時の冠水改善)について、村から回答をもらったが、その後の進捗状況はどのようなになっているのか？



建設農政部長▼昨年度、沈下対策をまとめ、工事を発注し、平成28年3月末に工事完了予定となっている。これまでとは異なり、舗装の下に発泡スチロール系の材料で約1m30cmの盛土をし、構造を軽くすることで、沈下を抑える工法で実施していく。

竹瓦区住民▼自治会制度の現状はどのようなになっているのか？

村民生活部長▼「まちづくり協議会」への移行ということで、村では現在、地区自治会制度の見直しを提案している。少子化などで人が少なくなっており、自治会活動を続けていく中では、後継となる担い手がいないなどの問題が出ている状況である。今

の自治会制度になって10年が経過した。現在の自治会制度は、地方分権一括法という法律で、さまざまな権限が村へ降りてきた際に、この形での自治会制度をやリませんかというような形で始まった経緯がある。村の将来像を考えていく中で、本当にこのままの制度で良いのかを各地区の方々に考えてもらいたい。今は混乱もあると思うが、今後、もう少し良い形を提示できればと考えている。各地区の問題を解決できるような組織づくりを考えていきたいので、皆さんのご協力をお願いしたい。

竹瓦区住民▼今年はJA稲作部会への補助金がないとのことだがなぜか？

建設農政部長▼現在、補助の見直しを行っている。これまでJA部会への補助は村だけが行っており、JAでも補助を出すよう協議したが、出せないとのこと、今年度はなくしたが、来年度はあらためて何らかの支援策を考えていきたい。

【白方地区】

期 日 ▼ 8月26日
場 所 ▼ 白方コミュニティセンター
参加者 ▼ 94人

豊岡区住民 ▼ 住宅が増え、農地が
虫食い状態になっている。住宅が増えると、農業をする際、早朝の騒音やほこりを気にすることになり、苦勞しながらやっている。農地転用をする基準や、農地を集約することなども踏まえた村の農業政策について伺いたい。

村長 ▼ 村内の宅地化は、10年住んでいれば家を建てるのができる10年ルールが適用されるために進んでいる。これは県全域で定められているため、東海村だけ外すということはできない。この問題は村長就任時からの課題であり、土地利用のルールづくりというものを掲げてきたが、いまだ計画はできていない。土地は個人の財産であるため、規制するのはかなり難しい。私個人の考えとしては、虫食い状態の農地は、市民農園等として一般の方に貸し出して、農業をやっていない方に実際に土をいじるということがどういふことなのかを知ってもらいたい。農業

をやるには機械が必要であり、そのための騒音もあり、虫なども発生する。それは当たり前であることを消費者に理解してもらうとともに、農業に関心を持ってもらいたい。そのようなことを新しい農業振興計画の中で決めていきたい。一方で、守るべき農地は、保全エリアとして守っていく必要があると考えている。づくりとは、どのようなものか？

村長 ▼ 東海村ほど住民の力が強く、地域の方々が動いてくれているところはないと思う。これを持っていければ、住民が主体的・自主的に動き、地域を支えるすばらしい村になる。そのためには、多くの方が地域の活動に参加しやすい仕組みづくりが必要である。難しい問題だが、地域の活動には、あくまでボランティアとして参加してもらい、その事業に掛かる費用は村で支援するという形を目指して実施していきたい。

【真崎地区】

期 日 ▼ 8月27日
場 所 ▼ 真崎コミュニティセンター
参加者 ▼ 121人

事前質問 ▼ 自治会加入のメリット
について、他市では、市外から転入した方や市内のアパートなどに住んでいた方が(市内に)住宅を取得した場合、最高50万円を支給する補助制度等を設けている。支給条件の一つは、自治会に加入することとなっており、村でも実施できないか？
村民生活部長 ▼ 他自治体では、人

口減少問題と併せた問題解決の手法として、このような補助制度等を設けているところもある。このような方法も一つだが、あらためて、東海村の自治会加入率の減少がどのような理由によるものなのか、現状を把握する必要があると考えている。加入しない理由は、「フライバシー」や「役員選出」等を懸念したものなのか、他に原因があるのかを把握した上で、加入促進の手段を考えていかなければならないと思う。村では、住民サービスを平等に行うという基本原則はあるが、自治会加入者に対するメリットを設けるなど、加入率

の向上を目指して、単位自治会の連絡調整機関である東海村自治会連合会との協働により、対応策を検討していきたいと考えている。

舟石川3区住民 ▼ 東海村の歴史を整備して子どもたちに伝えられるような環境を作っていただけあればありがたいと思う。

教育次長 ▼ 歴史に関して子どもたちに伝えられる環境の整備として、中央公民館の前にある土地を購入し取得したので、そこに子どもたちを集めて、村の歴史を伝承する「(仮称)歴史と未来の交流館」を建築する計画がある。これから基本設計に入り、現時点では平成30年度に建築完了を予定している。歴史や文化財を伝承・展示したり、子どもたちが見て・触れて・体験しながら、世代間の交流を図れる場を設けたりできるような、東海村の歴史資料館と子ども未来館の機能を併せ持つ複合型施設を造ろうと考えている。





多くの地区では、どんなことが話題になったのかな？

【中丸地区】

期日▼8月28日
場所▼中丸コミュニティセンター
参加者▼110人

事前質問▼高齢化や、働く世代・

子育て世代の増加で役員・後継者が不足しており、積極的に自治会活動を行える体制にはない。むやみに活動を活性化させるのではなく、まずは単位自治会が現状に即した事業計画・運営をしていく必要があるが、同時に、数ある申請手続きや組織を整備・統合することも検討してほしい。

村民生活部長▼村でも、地区自治

会や単位自治会の負担を少しでも軽減したいと考えており、「まちづくり協議会」の創設や、補助金の一括交付化による新たな支援策のあり方を検討している。引き続き、自治会等の皆さんと協議を重ねながら、より良い自治会や村民組織との協働について考えていきたい。

舟石川中丸区住民▼村政懇談会は、

村の職員と住民とで直接話ができる良い機会となっているが、議員と住民との話し合いの場があっても良いのではないかな？

議会事務局長▼今年から「議会報

告会」を始めた。5月に、中丸コミュニティセンターと舟石川コミュニティセンターで実施したほか、11月8日(日)に真崎コミュニティセンター、11月11日(水)に石神コミュニティセンターで実施を予定しているの、ぜひ参加してほしい。

フローレスタ須和間区住民▼現

在、フローレスタ須和間から南台にかけて、ひたちなか市へ向かう新たな道路が建設されているが、工事に大変長い時間がかかっている。現在の状況を教えてください。

建設農政部長▼道路の工事が止

まっているのは、ちょうど東海村とひたちなか市との境である。東海村側では、ほとんど完成しており、検査の完了を待っている状況である。ひたちなか市側では、用地交渉で難航している部分があり、東海村もひたちなか市と合同で協議をしている。用地交渉が解決できれば全線開通すると思われるので、もうしばらく待っていただきたい。

【舟石川・船場地区】

期日▼8月30日
場所▼舟石川コミュニティセンター
参加者▼91人

事前質問▼渋滞緩和のためにも、

国道6号の笠松交差点から石神十字路交差点までの間(1.5キロメートル)を4車線にしてほしい。

建設農政部長▼慢性的な渋滞を緩和

するため、また、地域防災計画においても避難道路や緊急輸送道路として位置づけられていることから、村としても重要な課題と捉えている。現在、日立市・常陸太田市・東海村からなる「日立都市圏幹線道路整備促進期成会」で、国道6号など、主要幹線道路の整備促進を、国土交通省や県へ要望している。また、国道6号は、南北軸の重要な路線であることから、これに

者が訪れて研究しているような国際的な村になっている。トップクラスの研究者が外から東海村に来て仕事をしているが、その仕事をサポートする人が必要である。小中学校など、小さいうちから医学や科学、工業に関心を持てるようにさまざまな行事を企画してほしい。

教育長▼自然科学に興味のある子

をさらに育もうと、中学生を対象に夏休みに筑波大に行き、関心を高めている。また、村のまちづくり推進課と共催で実施している日本原子力研究開発機構研究員とのディスカッションでは、自然科学への興味・関心や、どのような研究をしているのかなどについて意見交換をした。そのような取り組みを今後もどんどんやっていきたい。「(仮称)歴史と未来の交流館」は、歴史館だけの要素ではなく、子どもが休みの日に行けば工作ができた、理科実験ができるなど、児童館的な役割を担うことも想定している。

舟石川1区住民▼東海村は量子科

学の村であり、65か国から研究